

## 第 30 回日本川崎病学会総会・学術集会報告

去る 10 月 10、11 日の 2 日間に亘って、京都府立医科大学 濱岡建城先生が会頭を務められ、第 30 回日本川崎病学会総会・学術集会が、京都国際会館で開催されました。

学術集会に先立ち、前日 10 月 9 日の午後には、メルパルク京都において市民公開講座が開かれ、川崎富作先生と、濱岡先生のご講演に引き続き、相談会が行われ、川崎病の子供を持つ親の会や患者の皆さんが約 182 名も集まり、お互いに抱えている心配を、先生方に直接お聞きする重要な機会を持つ事ができました。



(写真) 市民公開講座の様子

翌日からの学術集会では、特別講演 2 題、レクチャー 2 題、一般講演 35 題、ポスター 49 題、2 つのテーマでのシンポジウムに 11 題、イブニングセミナーに 6 題、シンポジウム形式のランチョンセミナーで各日 6 名と 4 名のご講演が行われ、川崎病のありとあらゆる問題について、多くの研究発表と熱心な議論が交わされました。



(写真) 会頭 濱岡建城先生の開会あいさつ



(写真) 加藤裕久先生も活発な議論に加わっていただきました。

2 日間で 400 名を超える参加者があり、広い会場にもかかわらず、立ち見の方も出ました。

本年度は、現在、学会の学術委員会で進めている、日本人小児の正常冠動脈内径標準値作成のための心エコー・ハンズオンセミナーが開催され、研究の中心となっている、NTT 札幌病院の布施茂登先生と群馬大学の小林徹先生が、熱心な全国の有志に指導をされていました。

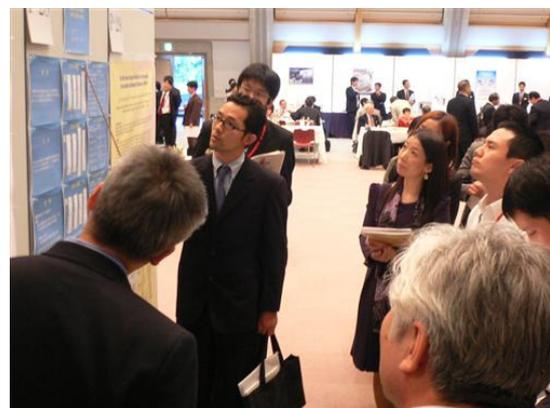


ちなみに、被験者モデルは小林先生のご子息たちです。ご協力ありがとうございました。

2日目の総会后、前回学術集会会頭の岩佐充二先生から、本年度の川崎賞が、京都府立大学の濱岡亜希子先生の **Linear shadows inside coronary arterial lesions on two-dimensional echocardiography in Kawasaki disease patients. J Cardiol. 2009 Jun;53(3):349-54. Hamaoka A, Niboshi A, Ozawa S, Tamiya H, Ito H, Shiraishi I, Itoi T, Hamaoka K.** に決定したことが発表され、賞状と記念品が授与されました。



学術集会の1、2日目とも、一般講演での真剣な発表と討論に続いて、午後は隣の会場に移って Wine/Cheese (1日目) や Refreshment/京菓子 (2日目) も用意していただき Poster Session が行われ、和気藹々と議論に花が咲きました。



(写真) ポスターセッションでの討議



(写真) Wine/Cheese フロアでの討論も盛んに行われていました。

今回は、イブニングセミナー この症例をどうする? ～対策と解決法を考える～の企画において、携帯電話を用いたのアナライザーシステムの使用が試みられ、会場の意見が一目で反映され、議論を深めました。



ランチョンセミナーは、2日間とも複数の講師による討論形式が企画され、1日目の「川崎病の病因解明の最前線」では、水谷哲也先生、黒田 誠先生、西尾壽乗先生、阿部 淳先生、野村裕一先生、鈴木啓之先生ら気鋭の先生方による講演を一時にまとめて聴く事ができました。

また、教育講演に来ていただいた、熊本大学大学院循環器病態学 小川久雄教授

による「日本における冠動脈疾患治療のエビデンス ～抗血小板療法を中心に～」と、東北大学大学院循環器病態学分野 下川宏明教授による「血管生物学の最近の知見 ～川崎病に関連して～」の講演は、成人循環器領域の最先端に触れることができ、学会員の知識を一段と深めることのできた貴重な機会でした。

おなじみの先生方のレクチャーは、1日目が、中村好一先生の「川崎病の疫学：全国調査から分かったこと」、2日目は山高志先生の「病態から見た治療戦略の構築 ～分子標的療法の可能性～」をご講演いただき、ベテランから若手まで、これまでの情報を確認すると同時に更に刷新できたのではないのでしょうか。

学術集会最後のシンポジウムは、「難治性川崎病の治療戦略」と題して、IVIG 反応性の予測と、IVIG 不応に対する治療プロトコル、の2点について計 11名の演者による発表があり、閉会まで熱心な討論が続きました。

成功裡のうちに、学術集会は終了し、皆さんが帰路につきました。

濱岡会頭はじめ関係者の皆様のご準備と当日のスムーズな運営に深く感謝致します。

第 31 回学術集会は、昭和大学横浜市北部病院 上村茂先生が会頭で開催される予定です。来年も先生方の日々の御研鑽の成果を期待しています。

(文責) 学会 HP 委員 鮎沢 衛